

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4393200029
法人名	有限会社 いずみ
事業所名	グループホーム 菜の花 苓北
訪問調査日	平成 21 年 3 月 3 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

○項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4393200029
法人名	有限会社 いずみ
事業所名	グループホーム 菜の花 苓北
所在地	〒863-2503 熊本県天草郡苓北町志岐151-1 (電話) 0969-35-1881

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15号4F		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】(21年2月14日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.8 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	210 円	昼食 315 円
	夕食	315 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.8 歳	最低 75 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	苓北医師会病院、苓北病院、天草慈恵病院、猪口医院、青砥歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

潇洒な建物で、手すりや安全性を考慮した散歩道や、遊具など地域の方との交流スペースも設置され、利用されている。また、生活環境に恵まれた場所にあるため、これまでの地域での暮らしや付き合いが継続して支援されており、地域密着の利点が反映されているホームである。日々の暮らしでは清潔保持に努め、本人の持つ力を引き出す役割の場面提供や、ともに会話をたのしみ又、誘導を心がけるなど、個別のケアに努めている。今後は、地域のホーム交流などを通じて更にサービスの質の向上や職員の人材育成に努められることが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	普段のケアを振り返りサービスの質の向上を図るために同業者との研修会に参加したり圏域4事業所で相互訪問や相互評価を行い、ホームの見直しに取り組んだ。その結果を元に出てくることは継続し、改善できることは早速研修等で改善に向けて取り組んでいる。家族参加の行事や意見交換においては、家族参加の行事を催し意見交換を行う機会をもうけている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が行い職員が閲覧し業務会議で意見交換し完成させた。自己評価・外部評価の後に全員で検討して改善課題に対して取組む予定である。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では入居者の生活状況や行事報告・研修内容の報告を行っている。委員構成は多岐に渡っており率直な意見交換が行われている。家族委員も多く会議前後の家族交流の場も有意義な支援が行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が多く、年4回の家族との交流行事や運営推進会議への参加も活発で、意見や要望等を言いやすい関係づくりを構築している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会主催の防災訓練(津波を想定)には、職員・入居者全員で参加している。住民の支援体制も自然に行われており地元のクリーン作戦や地区祭りの準備などにも職員が参加し日頃の連携ぶりが窺える。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に職員全員で地域の中で何を大切に支えていくかを考え、分かりやすい理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの目に付き易い箇所に掲示している。職員は出退時に確認し、職場会議や研修の際に理念の実践の振り返りを行っている。ホーム便りに掲載し、家族等への理解に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一員として清掃行事や区の「祭り手伝い」などに職員が参加して交流を行っている。近所の人から頂き物をしたり、近隣の子供たちが庭で遊べるように遊具を揃えるなど交流を図れるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が行い職員に回覧し業務会議で話し合いのうえ完成させている。自己評価・外部評価結果後に全員で話し合い改善へ向けて取り組んでいる。	○	評価の意義と目的について職員に説明し、全員で自己評価に取り組まれることが望まれます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは行政・地区役員・地域の方や家族で構成されており、行事・入居者生活状況・職員研修・外部評価などの報告後、意見交換・家族交流を行っている。		

グループホーム 菜の花 苓北

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との情報を共有しながら、依頼により認知症啓発のための講師を務めるなど、緊密な連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族面会時と毎月の「菜の花便り」や3ヵ月毎の手紙にて担当職員が現在の暮らしぶりを報告している。遠方の家族への手紙は毎月出している。体調変化時は随時電話で報告し、金銭管理は出納帳に記載し家族にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年4回家族参加のホーム行事にて意見交換の機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設2年で異動・離職はない。職員の産休時には職員の増員と引継ぎの期間を十分に取職員全員で交替のフォローをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に勉強会と、講師役の職員が中心となり自己研鑽の学習会を実施している。外部研修参加は、情報を提供し職員は、職責や希望に応じて参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会への出席と、介護職員のケアの向上を目指し地域内グループホーム4事業所で相互見学・評価を通じて研修を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と面接し、ホームにも見学に来てもらっている。入居者にとって顔見知りの職員が多く、馴染みの入居者との交流や家族の面会などの協力を得ながらホーム生活にスムーズに馴染んでもらうように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は調理や掃除・洗濯等、入居者と共に相談をしながら一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話から思いや意向を把握し、困難な場合は表情や仕草や家族の聞き取り要望から把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族と意向や希望について話し合い担当ケアマネの情報をもとに計画を作成している。出来た計画は再度本人・家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人・家族の希望・意向や気持ちの変化は日々の関わりの中から汲み取り、毎月のカンファレンス・3ヵ月毎のモニタリングを通じて半年毎の定期的な見直しを行っている。状況変化には随時見直しを図り対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて病院受診やお寺参り・墓参りに同行している。また、地域との関わりを継続できるように行事参加など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続し、定期受診は家族と共に看護師の職員が同行している。家族の要望で受診支援に同行した場合は、面会時や手紙にて報告をしている。状況の変化に対応した受診は電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りの指針を説明し同意を得ている。状況に応じて主治医・本人・家族・ホームで話し合いを重ねながら在宅医療の範囲内での終末期の支援を行う方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言を使った言葉かけでの関わり方や多忙な時の声かけに注意するように職員間で話し合っている。管理者は、プライバシーに配慮したケアを助言している。	○	親しみやなじみの関係とプライバシーとの兼ね合いを含めて学習や研修の機会を期待します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日の気分を把握して柔軟に対応している。個別ケアの際は特に入居者との会話を大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者と相談しながら決め、食材の買い物は入居者と共に毎日行っている。入居者の能力に応じて調理・味付け・後片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じた入浴を支援するように心がけている。入浴や部分浴を組み合わせたり、清拭等を行って清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け・洗濯物たたみ等の役割やカラオケ・散歩等楽しみ事の場面提供をし、その時の気持ちを大切に、すぐできるような対応を心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買物・ごみ出し・散歩、季節行事の外出、個人ごとの出身地区の行事参加等が支援されている。手すり付きの歩行訓練が可能な庭もあり安心して散歩ができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠せず、早朝と夜勤帯のみチャイムを作動している。本人の所在確認は目配り・気配りをし、外出の際はさりげなく職員が付き添い見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの元、入居者参加のホーム全員による防火訓練を実施し、近所にも発生時の協力を依頼している。また年1回の地区の防災訓練にも入居者全員と職員がボランティアや地域の人々と共に参加している。	○	夜間想定避難訓練の実施が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し職員で共有している。入居者の嚥下や咀嚼の能力に応じて調理形態をかえ提供している。塩分制限が必要な方には湯洗いなどで対応し医師への報告・確認を行い食事からの健康管理の支援を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、季節感や家庭的な雰囲気や装飾が施され、職員が見守りしやすい造りとなっている。室内、屋外共々つろげる場所が確保してある。採光や音にも配慮され、24時間換気と備長炭埋没と床下換気設備が設置されており、室温や湿度、臭気対策にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人・家族と相談し、馴染みの家具や生活用品などが持込まれ、個性的な居室づくりが支援されている。仏壇の日々のお供えも以前の習慣が継続できるよう支援している。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 菜の花 苓北
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草郡苓北町志岐151-1
記入者名 (管理者)	浦本 幸代
記入日	平成 21 年 2 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「その人らしく・自分らしく・思いやり・やすらぎ・ありがとう・笑顔あふれる菜の花」と職員全員で作った</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念実践にむけタイムカード前に理念を掲示し職員全員で日々の業務出勤時にみたり退勤時振り返りができるようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>事業所内【玄関・ホール】目につく所に掲示や、菜の花便りに記載したりしている</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>回覧板・散歩・近所の商店買い物などでかけて交流している。近所の方からも言葉をかけや運営推進会議にも出席していただいている。近所の方から頂き物や訪問、子供さんも庭を自由に使い遊んで行かれる。ホームの隣のお宅にお呼ばれし、お茶やカラオケを楽しんだ。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>全職員地域住民であり、地域役員もしている職員もいる又馬場区在住職員が2名おり。地域事情に詳しい。区入りし、防災訓練には入居者全員参加し、地域の方の協力もあった。クリーン作戦や区の行事【祭り手伝い】には職員が参加した。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議時、認知症に対する理解の啓発活動を行っている。認知症サポーター養成講座においては実践発表を行った</p>		<p>今後も継続して認知症に対する理解を深めていきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価の結果は職場会議、運営推進会議報告やホーム内にいつでもみれるよう閲覧している自己評価は職員全員が目を通し、検討した</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>参加者からの意見や質問は会議の場で検討し理解していた。意見は職員の励みになっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町からの問い合わせには即答している。管理者が町の地域包括支援センター運営協議会委員及び介護保険事業計画・高齢者福祉策定委員であり会議時報告したり、認知症サポーター養成講座においては町からの依頼を受け実践発表を行った。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修を行い職員全員の理解浸透に向けた取り組みを行っている</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修を行い職員全員の理解浸透に向けた取り組みを行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉・表情や行動サインをキャッチし利用者の思いを察する努力をしている。毎日申し送り時気づきを記入し共有できるようにしている。ボランティアの方と交流したり、意見を聞いている。運営推進会議に利用者も出席されている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族面会時や月1菜の花便りや、3月1手紙、遠方で面会に出来ない方には毎月手紙で報告している。体調変化時は随時電話などで報告している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>四季折々の行事【年4回】や運営推進会議などに出席頂き意見を出してもらっている</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の全体会議や毎日のミーティングなどで意見を聞くようにしている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者のペースに合わせたローテーションを組んでおり、管理者をフリーにし状態の変化に対応できるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合</p>	<p>職員移動は今の所なく、離職者もない。出産による長期休暇が1名あったが休暇前に職員を1名増員し十分な引き継ぎと職員全体でフォローし入居者へのダメージもなかった</p>	<p>今後移動や離職者があった場合は引き継ぎなど最善の努力をおこなう予定である</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部、外部研修を実施している。資格習得のための休日など考慮している。法人、個人の年間目標を職員全員でたて努力している</p>	<p>○</p> <p>今後も研修を継続しサービス向上と職員個人の人材育成に努めたい</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会やケアマネ連絡協議会など参加したり、圏域内同業の4事業所による相互研修も実施している。</p>	<p>○</p> <p>今後も研修を継続しサービス向上と職員個人の人材育成に努めたい</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩場所は設けてなく常に利用者と密着しているが、職員も楽しい職場作りに心掛けたり、職員の意見を聞いたり、希望休や連休を取り入れて勤務計画を作成している</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>現場にて入居者や家族の方と話したり、職員個人の業務をはじめ悩みなど聞くようにしている。現場に來れないときは管理者と連絡をとっている</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に本人、家族と面談や事業所見学をおこなっていた。入居時は担当ケアマネから情報提供をいただいたり、面談し連携している又入居当初は本人との関わりを多く持ち、思いを受け止めるようにしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前家族と面談や事業所見学などおこなっていただき、家族の思いや事業所としてのあり方など説明し理解を深めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時思いや状況を確認し現在利用中のサービスの有無の把握をおこない、サービス利用中の方には担当ケアマネと連携している。サービス利用されていない方には申請の方法や地域包括支援センターに連絡などおこなっている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前事業所見学や面談をおこない利用していただいている。馴染むまで馴染みの入居者の方と交流や、全職員地域在住であり、知り合いが多い。家族面会も多い。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理・洗濯・掃除など本人と共におこなっている。味付けや献立など聞いたり、畑作業など季節の植え付けなど相談している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員のみで生活を支えることは困難な場合があるため、面会時に生活状況を報告したり、在宅での暮らしぶりを伝えていただいている。不穏状態が強い時など面会や外出、外泊などの協力して下さる		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時本人の状況を伝えたり、手紙で伝えている。ホーム行事も四季折々に行い家族も参加され、家族間交流等一緒に楽しまれている。又希望時家族と一緒に外出している。		年4回家族参加行事を行っており、大変喜ばれているため今後も継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からかかりつけ医や地域の理美容、スーパー利用。月命日のお寺参りや家族が遠方の方には仏様、お墓参りもおこなった。地域の敬老会・文化祭【職員と一緒に歌ったり】・運動会などに参加し、親類や知人の方と交流し生き生きとした表情がみられた		町内それぞれの自宅近くの行事に出かけていく事で認知症啓発活動となり、それが普通の暮らしであるため今後も継続していく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合え	言動・行動・表情などの変化を見極め、孤立化せぬよう声かけ、会話、ハグや時には冗談を言ったり、調理や洗濯などに誘導し楽しめるように心掛けている。年長高齢者のお世話を		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療が必要となり入院された方にはお見舞いに行き、家族の方からお話を聞いたりしている。他の施設入居された方には施設職員からお話を聞いている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や行動、表情から真意を推しはかったり家族から情報を得るようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネからの情報と本人との対話の中や家族、親戚の方から面会時など少しずつ聞いている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の関わりや経過録、申し送り・個別カンファなどから総合的に把握している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向の確認や本人との毎日の関わりの中から言葉・表情・行動からの察知やカンファレンスや担当者の意見を反映している。本人、家族を含めた担当者会議を開催している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の関わりや経過録などからモニタリングをおこない、状態変化時は計画変更を行うようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過録や各チェック表及び毎日の申し送り事項の中に、気づき事項を記入し全職員で共有できるようにしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ病院受診や自宅外出支援など行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティアの方も運営推進会議に参加している。警察、消防署には入居者の写真入り特徴を記載した一覧表を提供し協力依頼している。警察署には特に職員が少ない夜間のパトロール強化を依頼している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の意向にて退居し老人保健施設入所された方には入居前に老人保健施設へ情報提供や連携会議をおこなった		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	計画作成職員は居宅ケアマネ経験があり介護保険サービス以外、町独自のサービスも周知している。今年度の在宅復帰対象者もなく継続的なケアマネジメントを必要とされる方もなかった・権利擁護など対象者もいれば協同していく予定であるが現在の所対象者はいない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医を本人・家族の意向のもと継続し、定期受診には家族と共に同行したり、同行できない家族には面会時や手紙で報告している。訪問診察を受けている方もいる。状態変化時は職員が通院介助し電話で報告している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期には主治医・看護師との連携の強化や医療の継続を支援し、最後まで本人の愛する家族と共に看取る予定である。医療器具も必要であれば購入予定。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>かかりつけ医や看護師を中心に急変時の対応や職員全員で最後まで本人らしく過ごせるよう支援していく予定、重度化時の夜勤体制など検討していく予定</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議や日々の申し送りなどで入居者の誇りやプライバシーを損ねぬよう話し合っているが、排泄誘導時など他の入居者に聞こえたりする場面がある。又職員の親が2名入居されており、親子の会話になる場合がみられるため、居室や入浴、排泄支援時など個別援助時以外は注意するように助言している。	○ 地域の方言を使っても尊厳のある関わり方、ソフトな言動など留意し職員個別指導や全体会議などで継続して話しあう予定である
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言動・行動・表情から察知し利用者自身が決定できるように働きかけたり、準備したりしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入浴など入居者の気分を把握し対応している。気分が沈んでいるときなど気分転換に散歩や買い物、ドライブなどでい、個別会話を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴後化粧水や乳液など支援している。理美容は本人・家族の希望の地域理美容を利用している。外出時の身だしなみなどは本人・家族と相談し支援している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材、頂き物の食材メニューを利用し献立の相談や調理や味付け、後片付けなど一緒におこなうようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者お一人お一人の嗜好は把握しており、嫌いな物でも調理で工夫したり、個別にミキサーやとろみなどを行い完食されている。お酒たばこを飲まれる方はいないが、行事【自宅やホーム】時少しお酒をたしなまれる方もいる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を試用し、放尿のある方のサインをキャッチし誘導や職員と一緒に排泄し一連の排泄動作を示すことでトイレの認識や排泄行為ができ放尿が減少した方もいる。歩行できない方も2人介助でポータブルトイレで排泄しオムツ排泄を少なくしている。失便時等部分浴や清拭を行い気持ちよく過ごしてもらっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度入浴日程は設定しているが、利用者のその日の意志や汚染の状況で随時対応している。ご夫婦や気の合う仲間と一緒に入浴したりと臨機応変に対応している。入浴されぬ日は、部分浴等対応し清潔に心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動を行い生活のリズムを整えている。昼夜逆転の方には無理強いせず散歩など行い軽い疲労感をえる事で夜間の睡眠ができたり、職員が側で付き添ったり、添い寝をしたりしている		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人お一人の力を発揮できそうな事をさりげなく準備したり声かけし、やりたいと思ったその時にできるようにしている。できた後には必ず感謝の言葉を伝えている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を持ち買い物時見守り介助で支払う方もいる。家族から預かり金を事務所で管理している方は出納帳をつけ家族面会時に確認して頂いている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出やすいように手すり付きの庭がある。買い物、散歩など日常的に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	家族と共に自宅外出されたり、家族支援ができない方には職員付き添い自宅外出やお墓参りを支援している。花火大会、文化祭、敬老会、餅つき、どんどやなど地域行事に参加		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状書きのお手伝いや本人が電話をかけたいときはかけている。家族からかかって来たときはお話されるよう子機で対応している。毎日日記を書いている方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会制限もなくいつでも気軽に訪問できる。職員も笑顔で挨拶したり、お茶を一緒に頂いている。時には一緒に食事をとって頂いたりしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束することはない。全体会議で研修を行い職員も意識している		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけておらずオープンだが早朝と夕方玄関にチャイムをつけている。常時行動の把握し、外に出られる時はさりげなく職員が付き添う、本人の思いのまま行動して頂いている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室には鍵がついている。常時全体を把握できるように業務している。居室ドア一部に透明ガラスのため目隠ししてプライバシー保護している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管管理が必要な物にはカーテンを引いている。利用者の状況に応じて危険因子はその都度回避できるよう声かけや見守りしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し職員の共通認識を図っている。事故発生の場合は家族に報告、説明をおこない理解していただいている又事故報告書を作成し町に提出している。誤嚥しそうな方にはとろみ食やそばで見守りや介助を行い早急な対応		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全体研修にて緊急時の対応の勉強会や利用者個別の対応など随時話しあっている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地区の防災訓練、消防署より来ていただきホーム全員による火災消火訓練も行った。ホームの近所に職員もおりすぐ協力できる。災害発生時は地区の協力もお願いしている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時抑制のない暮らしにはリスクが高い事を説明し理解していただいている。事故発生時には保険加入し対応できるようにしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常的に健康管理を行い記録している。変化時には管理者や看護師に連絡し医療機関連絡や受診など行い、家族にも報告している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを個別に作成し全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は名前・内容を確認し確実に服薬されたかを確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘予防に水分補給に心掛けたり、繊維質の多い食品や乳製品の調理や体操や歩行、腹部マッサージなど行っている。反対に下剤服薬にて下痢の場合は下剤のコントロールや乳製品を中止したりしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援	毎食後誘導し本人の能力に応じて職員が見守ったり介助している。就寝前にはポリデントにて除菌や日中はコップ、歯ブラシなど日光消毒や適宜ハイター消毒し清潔に心がけて		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎食記録し、主治医受診時報告している。食事量はお一人お一人の適量配膳している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	排泄後。おやつや食前には手洗いもしくはアルコール噴霧を実施しペーパーやマイタオルでふいている。外出後は手洗いがいを行っている。全体研修や清掃の手引きを作成し実施している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	全体で食中毒研修を行い職員全員意識している。まな板、ふきんはハイター消毒や日光消毒し食器は拭いた後乾燥機にかけている。食材は使う分購入に心掛け残飯は毎回素早く後始末、流し台、調理台は毎回清掃している。食中毒注意時期には刺身など生ものはさけている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入りロスロップ、手すりや玄関内は置物や花などで明るい雰囲気作りに、畳の椅子を置き一休みしたり、庭にはゴミチップ歩道や手すりです安全に移動でき、ベンチ、東屋などで一息ついたり、近所の子供さんが遊びに来れるようおもちゃの乗り物などおいている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面キッチン、高低差のある流し台や洗面台・天窓やサッシからの光を取り入れたり、浴室には「ゆ」やトイレには緑のれんや表示などわかりやすいようにしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室縁側、食堂そば、ウッドデッキには椅子や和室にはこたつを置き、ホーム内空間には観葉植物や花、置物、絵季節にあった飾り物など居心地の良い空間作りに工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居申し込み時馴染みの物を捨てずに持ち込んでいただいている。写真やお仏壇を持ち込み毎日お供えし本人らしく過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気と備長炭埋没と床下換気で空気の淀みやエアコン使用時など加湿器にて温度や湿度調節を行っている。毎日の清掃時には居室の換気や排泄汚染時は直ちに清掃し気持ちよく過ごせるように心掛けている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台・調理台には高低差をつけている。屋内外は手すりやスロープ設置。玄関段差部分とトイレ手すりには赤テープで目印をしている。ホール内は車椅子移動空間やテーブルなどつかまれるよう安全に配慮している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前には名前やのれん、書き初めの習字を貼ったり、トイレや浴室には張り紙、のれんでわかりやすい工夫をしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベンチや東屋で日向ぼっこや涼んだり、お茶を飲めるようにしている。車椅子でも外気に触れることができるようスロープや歩道がある。花壇や畑など活動し楽しみができるような環境設置している		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・受け身の姿勢ではなく、地域行事等にどんどん参加し外出支援を行っている。・身体や環境の清潔保持に努めている（入浴と陰洗の励行が膀胱炎等の予防になっている）。・耳元会話スキンシップを多く取り入れている。・本人の持っている力を引き出すよう役割や歩行誘導に心掛けている（入居時車椅子だった方も現在独歩できている方もいる）。